

視察等報告（復命）書

三次市議会議長 様

報告者氏名 掛田 勝彦

下記のとおり、視察が終了したので報告します。

	会派代表者	掛田勝彦	経理責任者	増田誠宏
視 察 議 員	掛田 勝彦			
期 間	令和3年2月10日（水）～ 令和3年2月10日（水）			
視 察 先	自宅での■オンラインセミナーにて聴講 視聴サイトの URL から、Zoom をダウンロードのうえ開始しました。			
視 察 用 務	人口縮小におけるまちづくり			
視察先対応者	事業構想大学院大学 オンライン講座事務局 上田			
概要及び所見	<p>講師 龍谷大学政策学部 教授 服部 圭郎 氏 (内容) 午後13:00～16:30</p> <p>人口減少社会になり、各自治体で移住者の獲得に奔走して綱引きが行われていますが、地域で現在暮らしている住民を流出させないことも大事です。本講座は、国内外の事例をもとに流出しないまちづくりの取組みに関する内容でした。</p> <p>人口減少下の中では、そもそもの町や都市のアイデンティティも風化していくことが考えられます。アイデンティティを醸成することで帰属意識が高まることで、地域住民のアイデンティティが強化されると言われました。（ここで言うアイデンティティとは、特定集団の帰属意識を言います。）一口では言えませんが、地域資源を開発し魅力化させることで、人と地域の関係性を強くすることが帰属意識の向上につながるとも言えます。アイデンティティのある町は、発信力もあり転入先の候補にもなります。また、人口減少下では、地域社会を成立させていたコミュニティが弱体化していき、社会的行事（お祭りなどのイベント）社会的協働作業（茅葺、清掃、雪かき）できなくなっていくことが考えられます。地域コミュニティの衰退を防ぎ、それを強化するためには、より豊かな生活環境を創造することができます。ある場所で生活をするには、何も経済的な理由</p>			

だけでもないと報告例を聞きました。地域社会の中で住民が社会活動をしていくこと、つまりコミュニティに帰属する意識は非常に重要な意味があると考えます。そのことが地域を支えるネットワークにもつながり、さらに、住民が集える場所を創出することで、顔の見える関係をつくることでいろいろな広がりができる可能性があると思いました。このことは、コミュニティの再構築にもつながります。

将来的にみれば東京に一極集中している状況が想像できにくいと考えます。大きく世界が変動していく中で、日本のあるいは地方の森林資源、自然環境といったものが再評価される時代が来るのではないのでしょうか。脱炭素社会に向けてどのように人々のライフスタイルが変化していくのかを注視する必要があると感じています。娯楽施設はないけど、地域の日常を豊かにする取組みや自分たちの暮らしをより豊かにする取組みの発想と実践が大切であると感じました。